

麻に つるる



北海道の亜麻畑 photo by K. Fujita

日本麻紡績協会

ASABO / Japan Linen, Ramie & Jute Spinners' Association

麻につつま

目次

・ 業界レポート	2017 年リネン（亜麻）事情	・ ・ ・	2
	2017 年ラミー（苧麻）事情	・ ・ ・	3
・ ミラノ・ウニカ出展・出張レポート		・ ・ ・	5
出展各社のコメント	株式会社麻絲商会		
	滋賀麻工業株式会社		
	株式会社大長		
	鈴木晒整理株式会社		
	帝国繊維株式会社		
・ プルミエールビジョンレポート		・ ・ ・	8
・ 欧州ツアー & CELC レポート		・ ・ ・	10
・ 会員企業紹介	丸佐株式会社	・ ・ ・	13
	豊川テキスタイル株式会社	・ ・ ・	14
	浅記株式会社	・ ・ ・	15
	株式会社タグチ	・ ・ ・	16
・ スペシャルレポート	遠州産地と染色整理加工のこれから		
	鈴木晒整理株式会社	・ ・ ・	17
・ 2016 年 定時総会を振り返って		・ ・ ・	19
・ 会員企業一覧		・ ・ ・	20
・ 会員企業ネットショップ URL 一覧		・ ・ ・	21

業界レポート

2017 年リネン（亜麻）事情

□ 欧州リネン

2016 年リネン原料（Flax）の主要産地であるフランス、ベルギー、オランダ 3 ヶ国での作付面積合計は前年度より 15,000ha 増加し、110,000ha を計上した。

世界的な異常気象や天候不順により、たとえ作付面積を増やしても原料生産高がそのまま増加するとは限らないのが Fragile な亜麻作物栽培の難しさである。種まき後、乾燥した天候が続いており、Flax の生育に悪影響を与えている様だが、最終的には 6～7 月の天候に左右されるが 2017 年の生産量は 2016 年より減少するとの予測。欧州での古い諺に在る、" June makes the flax. " の通りである。 * flax : リネン (linen) の原料名

< 5 ヶ年作付面積、原料・原糸生産量、価格推移 >

主要 3 ヶ国 (フランス・オランダ・ベルギー)	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
作付面積 (ヘクタール)	81,200	81,000	95,000	110,000	120,000 (推定値)
原料生産数量 (トン)	132,400	123,500	130,000	120,000	115,000 (推定値)
原料価格 (€ / Kg)	1.78	2.1	2.35	2.98	2.79

* 原料生産高 : Long fibres - Scutched line

* 2017 年度の数字は 予測数字

□ 中国リネン

2016 年の欧州リネンの中国への輸出数量は一亜原料で 117,060 トンと前年比 4.9% 増となったが、2017 年も前年並みの輸出数量が見込まれる。尚、中国国内の潤紡糸生産高は昨年に引き続き 80,000 トン程度の見込み。

中国リネン紡績工場は合計約 80 万錠あるが、実際稼働は昨年と同等の約 55 万錠程度と一部休眠工場の復活は難しい状況。中国各紡績工場の利益低下などの原因により原料輸入は中、太番手が中心で細番手用の原料は少ない為、各社争奪戦になる模様。



フランス ノルマンディーリネン畑 photo by T. Iida



フランス ノルマンディーリネン畑 photo by N. Iwase

業界レポート

2017 年ラミー（苧麻）事情

1. ラミーの栽培状況について

ラミーの栽培状況については、ここ数年来の栽培面積縮小の状況を脱してはいない。特に歴史的にも絶対的な生産量を誇っていた栽培地である湖南省、湖北省でのラミー栽培はかなりの減少傾向にある。その他の産地も同様で、江西省、安徽省、広西壮族自治区などでも非常に限定的になっていると思われる。今のところ栽培が保たれているのは四川省の一部になっている。

従って正確な情報を取得する事が非常に難しい状況にあり、あくまでも推測された数字の発表となっている。

2. ラミーの栽培面積及び生産量について（推定）

正確な情報が取得できないが、各方面の情報から類推すると栽培面積は5万畝(3,333Ha)。

その主要産地は四川省で約3万畝(2,000Ha)。

その他は湖南省、湖北省、江西省、安徽省に散在している程度になっている（正確な面積は考証できない）。

また、抜根はしていないものの管理状態が悪くなく生産に結びついていない畑もあり、定量的な推定が難しいのが実態。

3. 原草価格について

現在のラミー原草価格は、前述の通りの栽培状況であるため市場への供給量は限られているが、購入する企業も大幅に減っているため、急激な価格上昇はある程度抑制された。農家にとっては需要低迷に直面しながらも、生活維持のために痛みに耐えて販売せざるを得ない状況にある反面、加工業者にとっては高止まりが続き、市場価格とのギャップに苦労しているところ。

4. 2017 年の見通しについて

現時点ではこのような厳しい環境が急速に改善されることはないと思われる。しかしながらラミー栽培は中国の伝統的な産業の一つであり、中国政府関係部門である中国麻行業協会もこの難題を明確に認識している。政策的な栽培面積の拡大推進、農家の生産コスト削減、剥皮の機械化普及などを検討しており、積極的なシグナルを送り始めている。

今後このような政策をいかに農家に浸透させ、安定的な収入の確保と需要の回復による農家の栽培意欲の向上がラミー栽培復活のカギになっており、全てのラミー企業が待ち望んでいる。

各社とも各々の対応策を講じつつ、対策の効果を期待している。

以上

亜麻・苧麻統計表

(単位：千円)

品目	輸入糸					
	亜麻糸		苧麻糸		計	
平成年(1～12月)	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額
平成 20 年	972	1,078,211	271	240,994	1,243	1,319,205
平成 21 年	805	752,842	247	198,107	1,052	950,949
平成 22 年	903	762,908	298	249,500	1,201	1,012,408
平成 23 年	1,315	1,243,565	338	269,174	1,653	1,512,739
平成 24 年	1,172	1,099,260	262	232,549	1,434	1,331,809
平成 25 年	1,574	1,730,654	294	327,287	1,868	2,057,941
平成 26 年	1,452	1,826,471	315	380,177	1,767	2,206,648
平成 27 年	1,512	2,149,292	307	448,620	1,819	2,597,912
平成 28 年	1,178	1,410,512	215	278,070	1,393	1,688,582

(注) 財務省日本貿易統計による。

(単位：千円)

品目	輸入織物						輸入ハンカチ	
	亜麻織物		苧麻織物		計		亜麻・苧麻ハンカチ	
平成年(1～12月)	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千枚)	金額
平成 20 年	7,858	2,569,593	1,053	234,836	8,911	2,804,429	179	71,865
平成 21 年	6,224	1,769,982	995	275,402	7,219	2,045,384	331	62,549
平成 22 年	6,244	1,827,638	618	178,334	6,862	2,005,972	219	32,372
平成 23 年	6,954	2,351,660	928	247,210	7,882	2,598,870	114	25,943
平成 24 年	6,702	2,330,368	646	204,931	7,348	2,535,299	124	36,842
平成 25 年	7,134	2,878,201	717	239,543	7,851	3,117,744	81	40,658
平成 26 年	7,365	3,236,254	687	274,121	8,052	3,510,375	85	44,298
平成 27 年	6,822	3,258,646	796	289,496	7,618	3,548,142	87	38,013
平成 28 年	7,642	3,037,204	640	219,255	8,282	3,256,459	83	32,654

(注) 財務省日本貿易統計による。

ミラノ・ユニカ出展・出張レポート

<概要>

仏 P.V. (プルミエール・ビジョン) と双壁をなし、高付加価値を提案し、世界中の素材調達バイヤーが集う世界 2 大生地素材見本市と位置付けられている。

素材分野での“もの作り大国イタリア”を保持する為、海外からの出展は 2 年前に日本と韓国だけに門戸が開かれ、主催: JETRO (日本貿易振興機構)、JFW (日本ファッション・ウィーク推進機構) 後援: 経済産業省・日本繊維産業連盟のもと、日本ブースに日本企業 40 社が出展。

The Japan Observatory at Milano Unica 2018 S/S

日時: 2017 年 2 月 1 日 (水) ~ 2 月 3 日 (金)

場所: イタリア・ミラノ RHO FIERA MILANO/Hall 16

日本ブース 3 日間来場者: 2,456 名

<出展経緯及び目的>

平成 28 年 5 月に出展申請し、ASABO5 社での出展コンセプト“麻の襲 (かさね)”の内容及び提案生地の技術力の高さが評価され、平成 28 年 11 月にイタリア M.U. 本部で正式に出展が採択された。

出展目的は本来欧州市場開拓ではあるが、出展 5 社とも早急な成果より、先ずは出展生地の技術力をラグジュアリー・ブランドを始めとした欧州バイヤーに提案、評価を問う事、同展に出展することによるステータスの向上等、日本国内への波及効果を狙うことが前提。

<出展総括>

開催期間中 3 日間とも天候に恵まれず、雨模様となった。

日本ブースは場所も悪く、当初来場者数も危惧されたが、最終的には昨年並を確保した。

開催前日の 1 月 31 日 (火) に JETRO 通訳の方々に、各社ごとに出品商品について説明を行ったことで、期間中に来場したバイヤーに対するプレゼンもスムーズに行われた。初出展で不安の中スタートしたミラノユニカであったが、期待が持てる商談も何件もあり、満足のいく内容で展示会を終えることができた。



＜出展各社のコメント＞

株式会社大長

今回、初めてのミラノウニカへの出展でしたので、わからない点が多く戸惑うことばかりでしたが、ヨーロッパのアパレルの色に対する感性や風合いの好みなどのファッションセンス、テキスタイルの販売における生産背景・納期・ロットなどの方法について、大変勉強になりました。展示会后、わずかではありますが、スワッチオーダーもあり、次の展開へ期待も感じられる今回の出展となりました。



株式会社麻絲商会

今回初出展をさせて頂きましたが、内容や存在感が十分にアピール出来ず、また認知度や信用度も少なく、初出展での成果がまだまだ厳しいとの感触です。何より継続出展参加が望ましいと思われます。今後は展示会の前後、もしくはメゾンアパレル提案時期にプレゼン機会を設けるのも大事かと思われます。海外展示会出展も良いとは思いますが、国内展示会への動きも検討できればと思います。国内需要も麻素材が定着し、ここ5～6年前から国内生産に回帰しており、まだまだ販路拡充は可能だと思います。



鈴木晒整理株式会社

欧州向け展示会の出展は今回初めてでバイヤーの反応にとっても興味がありました。ジャンクオリティに対する評価と実績は、リサーチしておりましたが、実際生の声を聞いた事が大きな収穫でした。特に日本でしか出来ない生地や加工表現に強い関心を示し頂き、オンリーワンの物作りに対する評価は国内と同じだと思いました。次回の出展を視野にいて、日々企画開発に注力しております。最後に今回の出展にあたり、麻紡績協会の多大な御支援、御協力に感謝申し上げます。



(写真は日本ブース)

滋賀麻工業株式会社

今回初めての出展に不安と期待がありました。不安は、本番の国に国内規格の麻が受け入れられるのか？ でした。やはり普通の平織等の商品はダメ。その中で、弊社が得意としているフィラメントの交織、透け感、軽さ、ドレープ性、表面変化の商品は評判が良く、今後は、今回の反省、情報等を頭に入れながら、新しい素材開発をしていきたいと思います。



帝国繊維株式会社

本年のミラノウニカ展は、展示会場が 昨年迄の市街中心地から郊外に移り、当初来場者数が危惧されましたが杞憂に終わりました。来場者は、初日こそ やや少なめでしたが、日本製の麻素材に対する評価は高く、エルメス、ヴィトン、アルマーニ等著名メゾンが 指名来客され、予想以上の来場者で賑わいをみせました。事前にイタリア事務局のトレンド・コーナーへ、ASABO 各社生地が多くピックアップされたのが奏効したのでしょうか。今回の展示会で、国内生地販売に弾みが付いた事は間違いなく、我々 ASABO 各社での生地開発力(意匠力・技術力)の高さを改めて感じました。当初の出展目的を果たすことができました事を報告申し上げます。



Premiere Vision レポートー 2017 年 2 月展の概要ー

トスコ株式会社 木村 健二

ーPremiere Vision 全体としてー

* 2018 年春夏素材見本市「Premiere Vision」がフランス・パリで 2 月 7 日～9 日の間、開催されました。

* 会場の構成は昨年同様 HALL3 から HALL6 を使用し、以下 6 つのパビリオンに区分けされている。

Premiere Vision FABRIC・LEATHER・ACCESSORIES・DESIGN・YARN・MANUFACTURING

* 出展社及び来場者

- ・ 全体の出展企業は 1,678 社で昨対 2.7% の減（昨年度 1,725 社）。内日本からの出展は 63 社（昨年度 57 社）と増加。その中の FABRICS エリアでは、当社をはじめ日本からは 57 社（昨年度 41 社）が出展しました。
- ・ 来場者は 56,250 人と発表され、昨年より約 2.3% 増加（昨年度 55,025 名）。国別ではフランス、イタリア、イギリス、スペイン、トルコ、ドイツ、アメリカ、日本の順で、日本は 1,606 名と昨対比で 27% 増加した。
- ・ プルミエールヴィジョンの発表によると、来場者の 73% はフランス以外の国からで、特徴としては日本・中国・韓国などのアジアからの来場者が増加。EU 圏では地元フランスは横ばい、イタリアが伸びドイツが減少、近隣ではロシアとトルコが増加した。

トスコは今回で 3 度目の出展となり、2018 年春夏シーズンに向けて、特徴ある素材を中心に展示しました。

商品は過去 2 回に比べかなり絞り込み、織・編・ヨコを併せても 100 点以内に納め、見やすさと商品説明の明確さに心掛け、わかりやすい展示を目指しました。

また、PV 本部に提出した素材の中から 9 点がピックアップされ各フォーラムに展示されました。

展示商品の主な内容は、トスコのメイン商品である細番手のラミー素材各種をトップ糸展開したものや、日本独自の織編に特殊加工を施したもの、リネンの複合商品、オーガニック関連商品などで、欧州のお客様を中心に評価を頂き、多くのお問い合わせを頂いています。

但し、まだまだやるべきことも多くみられ、反省点も多々あり、展示方法も含め、更に改善する必要ありと感じています。

《FORUM》

- ・ アイテムや素材イメージごとに PV が打ち出すトレンドに合わせて出展メーカーの素材を展示。下記 6 つのコーナーに分かれている。
- ・ **THE FORUM & FILM** PV が打ち出す 17SS カラーと素材の総合的トレンドコーナー。

- ・ **EVENING FOCUS** イブニング、カクテルドレス、ウェディング向けのクチュールのなトレンドコーナー。
- ・ **STYLE FOCUS** 17SS に打ち出すシルエットを作る為のメンズ、レディース、カジュアルなマーケットに合った素材と付属のコーナー。
- ・ **TECH FOCUS** スポーツ、ビーチ、ワーク向けのハイテク、機能素材を中心としたトレンドコーナー。
- ・ **TOPS & SHIRTS** メンズ、レディースのシャツ、ブラウス、チュニックドレス、ポロシャツ向け素材を中心としたトレンドコーナー。
- ・ **OUTER & OVER** ジャケット、スーツ、パンツ、ジーンズ、コート素材を中心としたトレンドコーナー。

《 COLOR 》

- ・ メインカラーはモーヴ = mauve で、薄い灰色がかった紫色のクールでエレガンスな感覚。全体には明るく楽しいイメージになっている。カラーレンジは次の3つ。
 - ・ 植物の微妙に乾燥した感じの花粉や樹液などのイメージ。明るく輝いたイメージにグリーンのアクセント。
- ・ フィルターを通した明るいトーン。
- ・ エネルギッシュで強い色や原始的で地表の暗い色調と都市のメタリックな輝きなどとのコントラスト。

一 素材の打ち出し 一

ここ数年の打ち出しでもある軽さが続いており、合繊との複合や加工で風合はソフトだったり、ペーパーライクなドライ感と対比させている。目立った生地として、サテン素材で表面の光沢感を表現。サッカー調は糸の収縮でストライプやグレンチェックなど細かな組織。加工ではコーティングや箔が続いている。やはり使い勝手の良さそうな生地が多い様であった。

以上



欧州ツアー & CELC（欧州麻連盟：本部 パリ、会員数 1 万社）レポート

トスコ株式会社
代表取締役社長 根本 圭司

<第3回 欧州国際リネン会議> 2016 年 10 月 19 日～21 日 スペイン MADRID

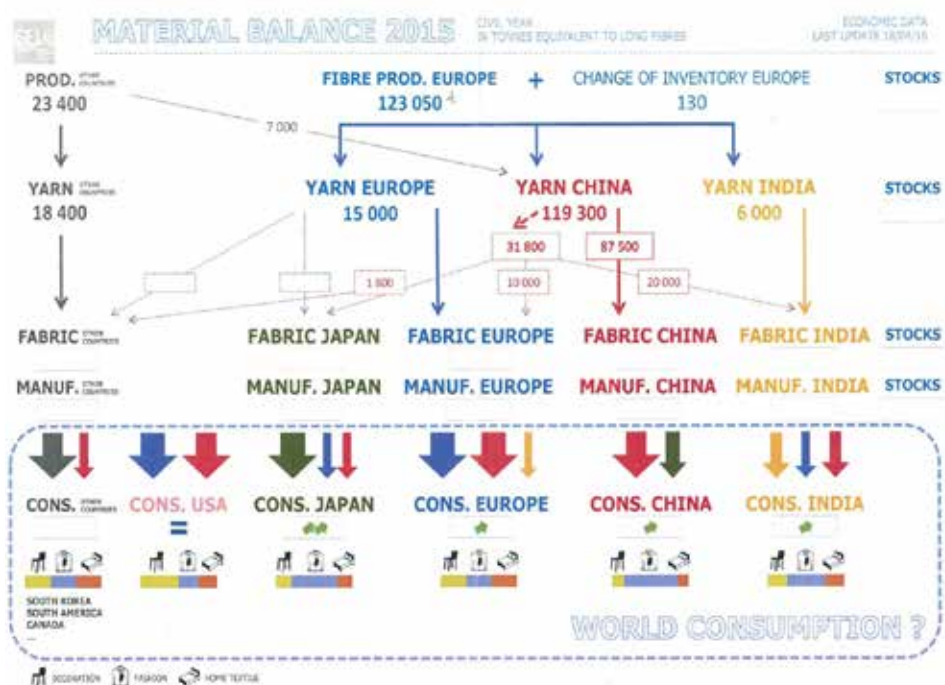
CELC の主催により第3回国際リネン会議が開催され、世界 16 ケ国からリネンビジネスに携わる約 300 名がスペインの首都マドリッドに集結。日本からは、日本麻紡績協会 香山会長補佐を団長代行とする当協会会員企業 10 社・12 名が参加致しました。

□ CELC からの情報発信

プログラム初日は、CELC(欧州麻連盟)のパート・レボルク会長の基調講演に続き、「グローバル&スペインのトレンド」、「テキスタイル用繊維のデータとリネン消費」、「新たなフラックスとリネンのストーリー・テリング」の各テーマについて、ゲストスピーカーが登壇し、夫々講演を行った。



資料: 世界のリネンビジネスマップ by CELC



□ 各国よりの報告及びパネル・ディスカッション

プログラム2日目は、リネンビジネスの国際的なマーケット環境、成長戦略、トレーサビリティ等がテーマ。インド・日本・中国から夫々市場環境が報告された後、パネル・ディスカッション形式にて議論を深めた。

・インド (Thomas VARGHESE : CEO ADITYA BIRLA RETAIL Ltd.)

インドのアパレル市場は依然成長過程にあるが、リネン素材でみると前年比で30%～40%減少している。リネン原料価格の高騰により他素材に置き換わっている面があり、原料サプライヤーに対し苦言。



・日本 (Manabu KAYAMA : 日本麻紡績協会 理事・会長補佐)

報告のテーマは、「日本の生活におけるリネンとラミー」と「リネン市場概観」。飯田会長が急遽渡航を見合わせられた為、帝国繊維の平野次長が飯田会長のスピーチを英語で代読。



続いて、ASABO（日本麻紡績協会）

香山会長補佐が、日本におけるリネン市場の動向、経済指標、繊維市場規模、リネンビジネスの持続的成長性、ミラノウニカへの出展等について、ポジティブな報告を行った。



・ 中国 (Mr. Chun Xing DONG : CBLFTA(中国麻紡績協会) 会長

人件費が高騰しリネン原料価格が高止りする中、製品価格への売価転嫁は難しく、中国の麻紡績業者は利益の創出が難しくなっている。リネン原料の格付け問題も議論が先送りされている旨の苦言を呈された。

・ パネル・ディスカッション

CELC 側の原料栽培、精練、紡績の各代表者と中国の紡績業者、インドの製織業者が登壇し、「品質」、「持続する成長」、「トレーサビリティ」をテーマに活発な議論。中国とインドの代表者より、CELC 側の全体的な方向性に異論はないが、原料の格付けと原料価格高騰については善処の要望があった。



□ 古都トレドへの小旅行

プログラム 4 日目の午後半日、各国団体の交流と融和を目的に、バスにて一路トレドへ。かつての西ゴート王国の首都。中世にイスラム教・ユダヤ教・キリスト教の文化が交錯した町で、旧市街がユネスコ世界遺産に登録されている。

大聖堂をはじめ、再度 世界平和を願いながら、ゆっくりと散策をした……。



会員企業紹介

丸佐株式会社

代表取締役社長 横川 栄一

当社は1896年（明治29年）に生糸商「佐久間商店」として創業し、その後人絹糸、合成繊維の取扱いを始めました。

現在の丸佐株式会社としては1946年（昭和21年）に創立し、岐阜地区に立脚する繊維の専門商社として歩み続け、2016年に創業120周年、創立70周年の大きな節目を迎えました。

現在の当社は原綿・原糸・紡績糸、テキスタイル、ガーメンツの3事業から成り、企業理念にある「一本の糸から製品まで」をより具現化する為に、連携を強化した組織づくりを進めました。

新しいシーズを中心に、新用途、新商品向けに開発された原綿・原糸。それらをトレンド情報、ファッション情報を元にテキスタイルとして実現させ、個々のお客様にミートしたガーメンツ提案に落とし込んでゆく、これが当社の理想とするコンバーティング事業の流れです。原綿を糸に、糸を織編物に、織編物を衣料に……。商品により高い価値を付与してお客様に提供していきたいと考えています。

私たちは「常にプロ意識」を持ち、お客様からのさまざまな声を素早くキャッチし、持ち備えた知恵と技術と情報を提供しながら、独自の価値を創造します。地元では老舗の企業であるという誇りを持ちながらも、東レグループの一員である事を積極的にアピールして連携を図りながら、ご満足のいただけるワンストップサービスを提供できる企業を目指します。

<企業理念>

丸佐株式会社は「一本の糸から製品まで」一貫して企画・販売できる強みを活かし 最高のサービスと共に 常に新しい商品をお客様に提供します



<会社概要>

設立：昭和21年9月

資本金：312百万円

事業内容：＊紡績糸事業

・衣料及び資材用途向け紡績糸の生産・販売

＊テキスタイル事業

・婦人・紳士、スポーツ衣料用途向けテキスタイル・コンバーティング

・高機能ユニフォーム用途向けテキスタイル・コンバーティング

・産業資材用途向けテキスタイル・コンバーティング

＊ガーメンツ事業

・婦人・紳士、スポーツ衣料用途向け企画提案型ガーメンツ・コンバーティング

・フォーマルウェアの企画提案型ガーメンツ・コンバーティング

会員企業紹介

豊川テキスタイル株式会社

代表取締役社長 山本 慎

<会社の沿革概要>

設立 昭和 53 年 12 月
資本金 3800 万円
従業員数 65 名
業種紡績業

生産設備リング精紡部門 4 ライン月産 70 t (20/1 平均)
空気精紡部門 2 ライン月産 130 t (9/1 平均)

生産品種リング精紡化合繊維糸及び天然繊維との混紡糸、麻混紡糸
アラミド糸（パラ系、メタ系）及びその混紡糸、スラブ糸、ネップ糸
番手 0.5/1 ～ 40/1

空気精紡リサイクル綿混紡糸（エコマーク取得）
化合繊維糸
番手 3/1 ～ 16/1

<紡績業へのこだわり>

当社は化合繊維の受注生産工場としてスタートしましたが、現在はあらゆる素材の紡績にチャレンジしております。リサイクル原料（反毛）からスーパー繊維まで 300 を超える品番を生産、また、エコマーク取得糸、スラブ、ネップ糸等の自販糸も手掛けています。

近年は化合繊維、高機能繊維の綿染（原着）糸の生産が増加しております。

これからも海外勢とは違う土俵で社員一同取り組んで行きたいと考えておりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



会員企業紹介

浅記株式会社

代表取締役社長 浅野 敬夫

今年、お陰様を持ちまして、創業 150 周年を迎える事ができました。

初代・浅野記平はもともと太物商(※)を生業としておりましたが、後に手紡糸の運搬・卸売りを行ったことが原糸商としての始まりとされております。

当社では創業当時より一貫して国産に比重を置き、特に新潟産地を中心とした生産者の顔が見える製品作りを心がけてまいりました。

これからも長年培われた信用と技術力を土台に、新潟産地の良い製品をマーケットに供給し、産地と共に成長する会社を目指しております。

※ 太物商……麻や木綿など普段着用の着物を扱う商売

<会社概要>

設立	昭和 26 年 9 月
資本金	9,545 万円
従業員数	40 名

<事業内容>

麻、綿を中心とした、先染織物・ニット製品、並びにその原糸の企画・販売



会員企業紹介

株式会社タグチ

代表取締役 野田 幹二郎

当社は、検反・修整業者として平成 29 年 1 月に創業 64 年を迎えました。
これもひとえに皆様のご支援ご厚情の賜物と深く感謝致しております。

検反・修整業者である当社は、メーカー様の大事な製品を預かる身にあるため、自身に対しあえて相応のプレッシャーを与えることで、よりよいパフォーマンスができるよう日々自己研磨に励んでおります。

さまざまな繊維を取り扱っている我々ですが、毎日目をこしらえて相当な量を見ている我々だからこそ感じることは、「＜麻＞は生き物である」ということです。他の繊維も目にしている我々だからこそ感じる＜麻＞の魅力があるのと同時に、取り扱う難しさも感じております。

我々は、＜麻＞の持つ通気性・速乾性といった特性・魅力を、如何にして最大限生かすことができるか、お客さまに最高の満足を感じていただけるかという使命を担っており、その使命を全うすることが責務であると考えております。

今後も、メーカー様と同じ目線で＜麻＞へのこだわりを持ち、お客さまと同じように＜麻＞の魅力を肌で感じることで、＜麻＞の持つ特性・魅力を最高の形で表現するお手伝いのできれば幸いです。

最後に、同業界のさらなる発展を祈願し、ご挨拶とさせていただきます。

<会社概要>

創業 昭和 28 年

資本金 20 百万円

従業員 66 名(本社)

関連会社・工場 本社：愛知県一宮市、中国：江蘇省太倉市、福建省廈門市

<事業内容>

- 国内外産現反及び縫製品の修整
- 輸入反の検反、修整、加工直し
- 海外縫製品の検品、修整、縫製直し、プレス
- その他、繊維製品のあらゆるご相談に応じる



スペシャルレポート

鈴木晒整理株式会社
専務取締役 鈴木 利尚

遠州産地について

遠州における綿作の最初の記録としては、天文年間（1532～1554）大福寺記録に浜名湖岸での綿栽培の記録があり、江戸時代初期には、年貢の対象となるほど栽培されてことがあります。

綿花の利用の最初は、防寒用材料としてであり、次に糸とし、織物として用いられました。「遠州風土記伝」の篠原村の項に「百姓木綿を織って産業と為し」と述べられています。

特に綿花の生産地の中郡方面の綿は「橋瓜の小袖綿」とも呼ばれ、品質が良かったばかりでなく、この地方は湧水地で藍や茜の栽培も盛んで、これらを用いて染めた綿布は、堅牢で色調に優れ評価が高かった為、遠州の綿織物産地として発展していきました。

時代は進み、明治初期から綿の作付け面積も年々増加し、明治15年には三河、尾張に続いて実綿生産量が日本の3位にまでなりました。

綿織業も明治20年頃には織機台数830台で生産25万反と増加し、明治26年には50万反に達しました。明治30年代には綿布販売業者が次々と会社を設立し、明治後半期には遠州織物同業組合が設立されました。明治33年には日本形染（株）が創立され、その後続々と染工場が増加していきました。

大正時代になると、東洋紡績（株）や日清紡績（株）、フジ紡績（株）、近藤紡績（株）等、大手紡績工場が相次いで設立されました。

昭和時代は戦争の混乱した時期もありましたが、それを乗り越えて昭和26年鈴木晒整理が創業、昭和33年、株式会社として起業しました。高度経済成長の波にも乗り、従業員15名で始めた工場が、昭和40年代には従業員も100名を超え、晒工場から染色整理加工場として拡大して行きました。

創業当時より、「量を追わず、質を追求する」をポリシーとして、同業他社にはないユニークな発想で、新しい加工を毎年発表しています。

伊勢神宮と深い縁をもつ遠州織物発祥の聖地・初生衣神社

浜松市北区三ヶ日町に位置する「初生衣神社」（うぶぎぬじんじゃ）は、遠州織物の発祥の聖地として崇敬されてきました。

平安時代にあたる800年以上前より、「伊勢神宮」へ神衣（かんみそ＝天照大神（あまてらすおおみかみ）が天岩戸から出てきた時に着たと言われる衣）を納めるという神事を担ってきた、他社に類のない由緒ある古社です。

ここで古来より神衣調達の職を預かってきた「神服部（かんはとり）家」は日本で唯一の苗字を持つ由緒ある家であり、一子相伝で800年以上に渡り初生衣神社の宮司を務められてきました。



染色整理加工としてのこれから

消費者目線での物作りを重視し、今までさまざまな加工を開発してきました。

風合い加工では、天然織物の持つ特徴を生かし、これまでには無い柔らかさとパウダータッチのBL加工や、合繊ライクでありながら上品な光沢と適度な反発感のあるST加工。天日乾燥のようなナチュラルなドライタッチでありながら、物性面でのデメリットを少なくした天然成分100%のSECCO加工。綿なのに麻の光沢と風合いを表現したディライト加工等、数多く発表しています。

また、綿産地でありながら、秋冬向けの起毛（スエード、ピーチ）にこだわり、40年以上も前より7社の起毛加工場とタッグを組んで日本ならではの繊細で上品な起毛を作り、年間加工売上の70%を秋冬商品で売り上げたこともありました。

ここ数年では、特殊性染用下晒の加工も増やしており、今まで製品染めの後にしていた風合い付けを下晒の時にさまざまな風合いや光沢を付与しておき、製品染めをした後も、その風合いが生かされる商品を多数開発しています。

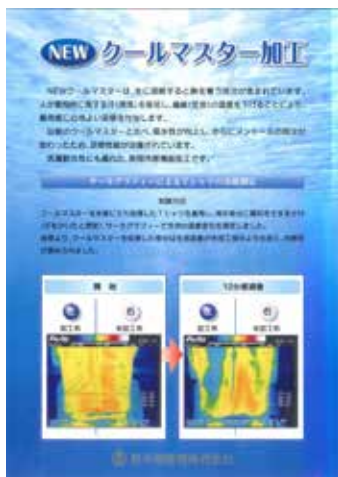
また、綿や麻ではフォーマルブラック（ウールや合繊）の黒を出せなかったのですが、昨年発表した「漆黒」でフォーマルにも使用できる黒を作ることができました。

各アパレルが店頭販売で苦戦をしている今、EC（eコマース）販売、所謂ネット販売向けに、パソコンかスマホの画面の文言を読んで興味をそそられる機能加工の開発も急速に進めております。

着用時に人の肌から発せられる水分に反応し、生地が温度が下がるクールマスター加工。襟や袖口の皮脂汚れを付きにくくし、付いても簡単に汚れが取れるソイルクリーン加工。平成29年5月のPTJ（プレミアムテキスタイルジャパン）に発表する、麻100%や綿の高密度織物、テニセル等のレーヨン100%の素材の持つ着用シワと家庭洗濯後のシワを軽減してイージーケアを実現したクリーズケア加工等、時代に合った商品作りをしております。

色と風合い。微妙なニュアンスを形に変え、織物に感性を吹き込みます。

身に付ける人、お客様、ここに集い働く者。すべての「満足」を目指してまいります。

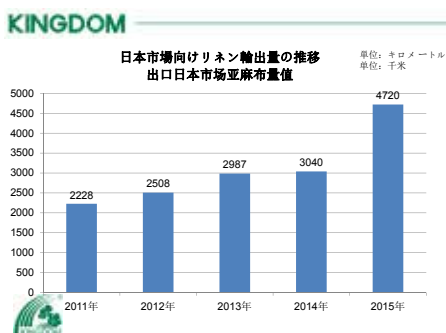
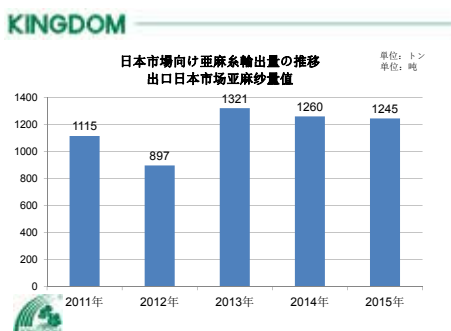


2016 年 定時総会を振り返って … KINGDOM 社 任維明主席特別講演

当協会の要請により世界最大のリネン紡績メーカーであるキングダムホールディング（金達控股有限公司）の任維明主席が来日、日本麻紡績協会の定時総会（5月19日）にてリネンに関する講演を頂きました。

キングダムホールディング社は中国浙江省海塩県にてリネン潤紡糸及びリネン繊維製品の生産販売を行っており、中国全亜麻市場における15%程度の生産量を占め、世界におけるリネン製品に対する最も影響力のある会社の1社とされています。

1年前の講演時、貴重なお話を頂いたのでここで一部紹介させていただきます。



KINGDOM

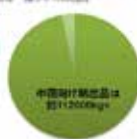
西ヨーロッパの亜麻 西欧亚麻

亜麻は主に西ヨーロッパに栽培されています。
亜麻主要産地西麻

原料亜麻は主に中国に輸出されています。
亞麻原料主要出口到中国



2015年、西ヨーロッパの亜麻生産者の生産量は123050キログラム。中国向け輸出品は約112000キログラムで、生産量の90%以上を占めています。
2015年西欧产亚麻约123050公斤，出口到中国约112000公斤，占欧总产量的90%以上。



日本麻紡績協会 会員企業一覧 117 社、1 協同組合（五十音順）

- ア 青葉株式会社
 株式会社 AKAI
 株式会社アクシス
 浅記株式会社
 朝日加工株式会社
 旭紡績株式会社
 アトモスフェール・ジャパン株式会社
 株式会社アマックスコーポレーション
 アンダー株式会社
 今村株式会社
 株式会社イワセ
 岩田工房
 栄光染色株式会社
 越前屋多崎株式会社
 エップヤーン有限会社
 株式会社エヌ・ピー・オール
 近江織物株式会社
 株式会社大志茂
 株式会社おおまえ
 大森撫糸株式会社
 小千谷織物同業協同組合
- カ カネマサ莫大小株式会社
 有限会社金丸整理工業
 甲株式会社
 有限会社川登
 株式会社カンセン
 株式会社関東小池
 菊高産業株式会社
 岐セン株式会社
 株式会社北国生活社
 株式会社キョウワソーイング
 株式会社金原
 グロリア株式会社
 桑村繊維株式会社
 KB ツヅキ株式会社
 株式会社ケンランド
 江東製織株式会社
 興和株式会社
 有限会社小啓修整織物
 株式会社コトノカ
- サ サイボー株式会社
 澤染工有限会社
 株式会社三幸
 株式会社三幸ソーイング
 株式会社三和リネン
 有限会社シービープランニング
 滋賀麻工業株式会社
 信友株式会社
 シバテクノテクス株式会社
 島村メリヤス株式会社
 株式会社ジャスカ
 聖天株式会社
 新成物産株式会社
 新陽株式会社
 鈴木晒整理株式会社
 有限会社鈴由商店
 装研株式会社
- タ 株式会社ダイイチ
 大恒株式会社
 株式会社大長
 大和染工株式会社（今治）
 高島株式会社
 株式会社タグチ
 株式会社武田商店
 株式会社タケミクロス
 タッカ株式会社
 辰野株式会社
 田村駒株式会社
 蝶理株式会社
 帝国繊維株式会社
 有限会社テキスタイルベガ
 株式会社テザック
 東興産業株式会社
 稲京株式会社
 東洋繊維株式会社
 東洋物産株式会社
 東和株式会社
 株式会社トーホーユニ
 トスコ株式会社
 殿岡服飾工業株式会社
- 有 有限会社トモ企画
 豊川テキスタイル株式会社
 豊田株式会社
- ナ 中伝毛織株式会社
 中村株式会社
 有限会社ナカモリ
 西本株式会社
 西山繊維株式会社
 日新実業株式会社
 ニット技研
- ハ ハイランドテクノ株式会社
 服部テキスタイル株式会社
 平岡織染株式会社
 株式会社廣瀬商会
 廣瀬又一株式会社
 フォワードアパレルリミテッド株式会社
 藤居織物工場
 ブルーミング中西株式会社
 株式会社穂高商事
- マ 株式会社麻絲商会
 株式会社マルキン
 丸佐株式会社
 丸進工業株式会社
 丸紅株式会社
 株式会社丸萬
 三重ユニフォーム株式会社
 株式会社三崎
 ミマス株式会社
 未来テクノ株式会社
 株式会社武蔵富装
 株式会社むつ縫製
 森菊株式会社
- ヤ 山甚物産株式会社
 株式会社ユニウエル
- ウ 株式会社リード商会
 有限会社リネット
 リネンハウス株式会社
- ワ 株式会社ワールドプロダクションパートナーズ

会員企業ネットショップ URL 一覧 (五十音順)

株式会社エヌ・ビー・アール	http://cadeauya.nbr.jp/
株式会社おおまえ	http://www.oomae.co.jp/main/goods/bagmenu01.htm
KB ツヅキ株式会社	http://www.rakuten.co.jp/t-z/
株式会社北国生活社	http://www.amanosato.jp/
株式会社コトノカ	http://www.kotonoca.com/
有限会社シービープランニング	http://studioecru.shop-pro.jp/
株式会社タケミクロス	http://www.takemicloth.co.jp/
辰野株式会社	http://tatsuno-uniform.net/
帝国繊維株式会社	http://www.linenshop.jp/
株式会社ダイイチ	http://e-uniform.jp/index.php
トスコ株式会社	http://ramino.biz/index.html
有限会社ナカモリ	http://www.rakuten.co.jp/nakamori
ブルーミング中西株式会社	http://www.handkerchief-gallery.com/
ブルーミング中西株式会社	http://www.room-recipes.com/
株式会社麻絲商会	http://www.mashi.co.jp/
森菊株式会社	http://www.rakuten.co.jp/kijistore/index.html
有限会社リネット	http://www.lin-net.com/shop_linnen.html
リネンハウス株式会社	http://www.linenhouse.jp/

日本麻紡績協会

〒 103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL 03-3668-4641

FAX 03-3668-4642

Email jp-asabo@cb.wakwak.com

URL <http://www.asabo.jp/>

平成 29 年 5 月 18 日発行

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓮（よもぎ）」に由来しています。
ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。
転じて、善良な人々に交われば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、という意味に用いられます。
日本麻紡績協会におきまして、麻に携わることを生業（なりわい）としている我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなどビジネス人生を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌のタイトルといたしました。



北海道の亜麻畑 photo by K. Fujita

日本麻紡績協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL: 03-3668-4641

FAX: 03-3668-4642

Email: jp-asabo@cb.wakwak.com

URL: <http://www.asabo.jp/>